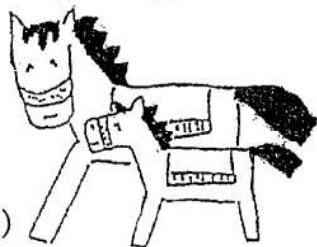


♪  
お馬のかあさん  
やさしいかあさん  
子馬をみながら  
ぽっくりぽっくり  
あるく

# おうまのおやこ

子育ても  
あせらず待ちましょ  
ポックリ、ポックリと



21年 8月 NO. 177

〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2  
高松保育園内地域子育て支援センター  
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857  
<http://www4.ocn.ne.jp/~kouma/>

(厚生労働省・高松市委託事業)

## ～どなたでも～ 8月の主な活動 ～お気軽にどうぞ～

8月 7日	金	おはなしの会 10:30～11:30	おとなも楽しめますので 親子でどうぞ。
8月 8日	土	体験保育 10:00～12:00	同じ年齢のクラスに入って いっしょにあそびましょう。
8月 22日	土	地藏盆のつどい 17:00～20:00	縁日や花火、盆おどりも ありますので、どなたでもどうぞ。
8月 27日	木	香川みすゞさんの会 14:00～16:00	「公共の交通機関から市民生活を 考える」 講師：宮本三枝子さん
8月 28日	金	健康・育児相談 11:00～12:00	小児科園医師にゆっくり 相談できます。(予約要)
8月 29日	土	体験保育 10:00～12:00	出産予定の方も子育て体験に おいで下さい。
8月 29日	土	実用筆書き講座 14:00～16:00	初めての方も、大歓迎！ (託児予約要)

・毎火曜日 園庭開放(13時～16時)  
・上記の活動日以外は13時～18時まで地域開放します  
ので、親子でご来園下さい。  
(但し、月・日曜・祭日は休み)

育児相談(月～土) 9:00～18:00  
しつけや子育てについての悩み、  
保育園生活、入園・見学について  
の相談もどうぞ。

### 海の人形

大きな真珠のお手まりや、  
貝のかずかず、枝珊瑚、  
人魚のむすめは飽きました。

おか  
陸の子供のもつという、  
黒いおめめの人形が、  
ほしい、ほしいと泣きました。

母さん人魚はいとしさに、  
人形抱いた児の船を、  
沈めてそれを奪りました。

むすめは人形みるたびに、  
とおいお国がこいしくて、  
とうとう海を捨てました。

海の人形はやわらかな、  
藻のゆりかごで、すやすやと、  
いまも、お夢をみています。

おか  
陸の人魚は、ふるさとを、  
こいし、こいしと磯でなく、  
磯のちどりになりました。

金子みすゞ童謡全集3  
空のかあさま・上より



# 「かみつきに」ついて



1歳代から家庭や保育園でかみつきが頻発する場合があります。当園の1歳、2歳児担当の保育士がかみつきに対してのとらえ方や対応についてまとめてみました。

## 1歳児クラス担当より

① 1～2歳前半にかけて、子どもたちは段々と自分の意志（したい事）がはっきりしてきて、自己主張するようになってきます。

しかし、言葉が未発達なため、相手にうまく伝えられず、おもちゃの取り合いなど、友だちとのケンカが原因の場合や、「かまって欲しい」などの欲求不満が原因で【かみつき】がおこります。

② かみつきが起こりやすいとき

- ・体調が良くなかった。
- ・ひとり遊びのところに他の子が入ってきた。
- ・おもちゃの取り合いになった。
- ・たまたま友だちの手が口のそばにきた。
- ・お腹がすいたり、眠気がきて機嫌が悪かった。

③ 保育士は、それを未然に防げるよう、子どもの行動を把握し、予測して声をかけたり、回避できるよう気を配っています。

しかし、どうしても止めるのが間に合わず、かみつきがおこってしまった場合は、すぐに子どもたちを離し、かまれた子には流水で冷やしたり、湿布をしたり、薬を塗ります。かんだ子に対しては、一方的に注意するのではなく、状況を把握し、まずは、「～が欲しかったんだね」「～したかったんだね」と伝えたかった気持ちを代弁し、気持ちを受け止めるようにします。そして、その後で、かむという行為は、「してはならない事だ」という事をはっきり注意します。

## 2歳児クラス担当より

2歳児クラスでは、

- ・かみつき癖がある子も、かまれる子もだいたい決まっているので、食事などで座る時、隣り合わないよう工夫する。
- ・かみつきが起きやすい場所、時間帯、あそび内容などを把握し、子どもの行動をよく見守り、トラブルが起きた時には、かみつきが未然に防げるよう仲立ちし、言葉で伝えることを知らせていく。
- ・かんだ子どもをしっかりと抱きとめ、相手が泣いたり、傷ついたりすることも見せ、繰り返しこたばをかけて、「かんだらだめ」ということを意識づける。「〇〇ちゃん、痛い痛いつてよ。よしよししようか？」と声をかける。かんでしまった相手に「ごめんね。」の気持ちを表すことができるようにする。
- ・子どものエネルギーを十分に発散できるように、戸外あそびを多く取り入れる。

- クラス全体が落ち着かない状況にある時にトラブルが多くなるので、あそびの環境設定（コーナーづくり）を工夫し、一人一人が落ち着いてあそび込める遊具の数や空間を確保していく。
- それでもかみつきは一瞬に起こる為、その後、かまれた子の傷の手当をすばやく行くと共に、かみついた子には、その行為がいけない事であることを、繰り返し知らせ、相手の気持ちが分かるようにしていく。
- かまれた子の保護者の方には、トラブル時の状況を具体的にお知らせしておことわりすると共に、日常からかみつきを含めた子どものぶつかり合いは、成長過程において意味あるものであることを理解していただくよう伝えていく。かみつきが連続して見られる子に対しては、保育のあり方なのか家庭環境なのか、その理由について保護者の方とゆっくり話し合う時間を持つ。

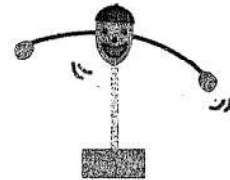


## 「発達がわかれば子どもが見える」

（編著 乳幼児保育研究会発行 出版社ぎょうせい）

という本には、現場での発達過程の発見と毎日の実践の中から次のように書かれています。

### かみつき



子どもの育ち、保育の条件や過程、保育者の経験の豊かさや連携システムのあり方などで多面的に考えていく必要がありますが、ここでは発達の観点からみたしくみと対応に絞ってまとめてみます。

#### 自我の確認

自分がやったことを十分に認めてもらった子どもは、“かみつき”が少ないと言われています。例えば、子どもが泣いている時に「どうしたの？くやしかったね。」などと子どもの気持ちに添ってあげられる、子どもがボールを投げた時に「わあ！上手に投げられるんだね！」などと投げたことにしっかりと反応してあげる、といった具合に子どもの行動に共感し、自我の確認をさせていくことがまず第一に必要になりそうです。家庭での対応を少し変えてもらうことで大きく変わります。

#### 発達への願い

“かみつき”の行動は、クラスの子どもたちの中で広がりやすい傾向もありますので、早めに対応していく必要があるでしょう。何より事前に子どもたちの思いを丁寧に受け止め、“かみつき”に至らないことが大切ですが、“かみつき”が出始めた場合には、すみやかに保護者に“かみつき”の事実を話し、家庭での様子を聞いてみましょう。

園で“かみつき”がでているお子さんは、父母に対してもかみついていることも多いようです。両親は、愛情表現やふざけっこと受け止めていることも少なくありません。0歳児での“かみつき”の始まりは、コミュニケーションの一部であることが多いのです。子どもたちが“かみつき”によってどんな思いや願いを表現しようとしているのかを大人が深く理解することが、対応を考える出発点となります。

その上で保護者と協力しあい、“かみつき”は、相手を傷つける行為であること、この先、自己主張が強く出てくるときに、トラブルの原因にもなること、その行為を他の子ども手段として覚えてしまうこと、クラスに広がる場合があるということを保護者と確認しておくことも必要でしょう。

1歳児のクラスでの“かみつき”は、自我の表現や自己主張の手段の形をとって現れますが、それは「発達への願い」を表現しています。現象としては、興味が同じことによる玩具の取り合い、場所の取り合いなどが原因となるように見えることがほとんどですが、中には、通りすがりにかみついたり、引っかいたりという姿が見られることもあります。

対応方法としては、この時期の発達の力を十分に発揮し、さらに展開できるような援助と場面設定が必要です。

1) (個人の面) 玩具の一人当たりの量を豊富にし、あそびの空間が重なり合わないよう配慮し、間に保育者が付くなど、それぞれのあそびの場所を保障していきましょう。

2) (友だちとの交流の面) 子ども同士のかかわり方をむしろ、より積極的に前向きに展開させていく工夫が必要となるでしょう。

“かみつき”が頻繁なときは理由がわかりにくいときには、その子の行動を観察し、あそびが見つけれられているかどうかを把握しましょう。あそびの素材や場を提供して、あそびの楽しさを新たに発見したり、友だちとのかかわり方を豊かにしていくことによって、“かみつき”は徐々に減っていきます。その際、子どもが、まだ十分言葉にできない思いを保育者が言葉にし、子ども同士のやりとりの仲立ちとなることも大切です。

### 力の切り替えと展開

子どもは、かみついたことで相手が泣き出すなど、自分が力をかけて対象が変化することを確かめている場合があります。“かみつき”がみられた時には、子どもは何よりもまず自分の思いを十分に表現し、受けとめられていく必要があります。

その上で、保育者は、子どもが気持ちを自ら切り換えていくための重要な支点となって系統的に援助していきます。

例えば、狭いプールにたくさんの子どもたちを入れて遊ばせたりした時に、次々に噛んでしまうといった場合があります。その子は、自分の力を展開して周りの変化を確かめているのでしょう。そのような時には、タライなど水を外に出すあそびをさせてエネルギーを存分に発揮させながら、そのような活動を多様な対象や内容の中で展開させ、さらにそのことによって友だち同士のつながりが豊かになっていけるように導いていきます。力を展開したり場面を展開したりする力は、一人ぼっちでは身につけません。保護者や保育者、そして友だちの支えが不可欠です。

1～2歳児が大人の言葉をどのように受け止めているか、どのように理解しているかについても配慮する必要があります。保護者や保育者が、人を噛んではいけないことをしっかり伝えていく姿勢をもつことも大切ですが、子どもたちが“かみつき”によって表現せざるをえない深い思いと願いを理解し、罰や報酬や隔離ではなく、また単なるエネルギーの発散ではない豊かな対応方法を大人の側が発見していくことが期待されます。それは、保育や子育てのあり方を大きく発展させ、豊かにしていくことにもつながるでしょう。